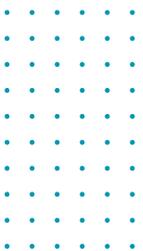




Environmental report
環境報告書2024
HIRAOKA & CO., LTD



目次



トップメッセージ	P.3
当社について	P.4
環境保全活動の歩み	P.5
環境基本方針	P.6
リスク管理体制	P.7
当社のビジネスモデル	P.8
環境中期計画	P.9
環境報告の全体像	P.10
環境負荷低減への取り組み	
【気候変動抑制】	P.11
【水資源・生物多様性保全】	P.12
【産業廃棄物削減】	P.13
【化学物質の適正管理】	P.14
【大気汚染予防】	P.15
リサイクル・アップサイクル	P.16
人と環境にやさしい企業活動	P.18
人と環境にやさしい製品づくり	P.20

編集方針

【報告書の対象期間】

2023年4月1日～2024年3月31日

【報告書の対象範囲】

東京本社、大阪支店、草加事業所、滋賀ターポリン工場

これからの環境問題に 当社ができる選択を

代表取締役社長 **平岡利文**



私たちは今、様々な地球環境問題に直面しています。

特に温暖化に関しましては、酷暑を始め線状降水帯など、昭和・平成の時代には無かった現象が発生しています。

昭和に築かれた多くのインフラの建築物の材料には、その普遍性からコンクリートや鉄骨といった硬い材料が利用されてきました。

その材料の製造時には多くの化石燃料を消費し、さらに老朽化による解体時には大量の産業廃棄物を生み出してしまいます。

当社は、繊維基材と高分子材料を独自の配合技術と加工技術を組み合わせて一体化させ、軽量で耐久性の高い多種多様な膜材料製品を作り提供し続けています。

この膜材料製品を使用した建築物では、在来工法に比べ大幅なCO₂削減が可能で、膜材によるテント屋根の太陽光透過による室内照明の削減はエネルギー消費を抑えることに貢献します。

私たちは、このような膜材料製品を作り提供することで、人と環境にやさしい持続可能な社会の実現を目指し、地球規模の環境問題や社会課題の解決に向け、これからも挑戦を続けてまいります。

会社概要

名 称	平岡織染株式会社
本社所在地	東京都台東区三ノ輪1-21-7
代 表 者	平岡利文
資 本 金	48,438千円
創 業	明治35年8月（1902年）
事 業 所	東京本社、大阪支店、草加事業所、滋賀ターポリン工場（以下、滋賀工場）

国内ネットワーク



環境保全活動の歩み

- 2002.12 滋賀工場が滋賀県の「大気環境負荷低減計画実施事業場」証明書受理
- 2003.03 草加事業所が埼玉県の「彩の国エコアップ宣言書」受理
- 2004.01 草加事業所にガスコージェネレーション(550kW)を導入設置、稼働開始
- 2006.08 草加事業所に蓄熱式排ガス浄化装置(150m³/分)を導入設置、稼働開始
※VOC大気放出量の大幅削減に貢献
- 2008.11 滋賀工場の重油焚きボイラ3基を高効率のガス焚きボイラに更新し、同工場の重油使用を全廃
- 2010.12 草加事業所の重油焚きボイラ2基を高効率のガス焚きボイラに更新し、全社の重油使用を全廃
- 2012.05 滋賀工場の湿式電気集塵機(排煙処理装置)追加設置・稼働開始
- 2013.05 滋賀工場の脱臭装置新規設置・稼働開始
- 2014.01 草加事業所の照明器具全てをLEDタイプにリニューアル開始
- 2015.04 草加事業所に高効率型ロールコーターを導入設置、本格稼働開始
- 2016.08 草加事業所の蒸気ボイラ(ガス焚き)を高効率型に更新、稼働開始
- 2018.03 滋賀工場の帆布熱処理炉を熱媒加熱式高効率型(臭気低減タイプ)に改修
- 2018.07 滋賀工場棟の照明器具全てをLEDタイプにリニューアル開始
- 2018.09 草加事業所の排水処理施設を最新型加圧凝集浮上設備へ更新
- 2019.01 滋賀工場の熱媒ボイラ(ガス焚き)を高効率型に更新、稼働開始
- 2019.03 草加事業所のガスコージェネレーション(550kW)を700kWタイプに更新、稼働開始
- 2020.02 滋賀工場の高圧蒸気ボイラ(ガス焚き)を高効率型に更新、稼働開始
- 2021.02 滋賀工場の蒸気ボイラ(ガス焚き)2基を高効率型に更新、稼働開始
- 2021.03 草加事業所および滋賀工場棟において、照明器具のLEDタイプ切換え計画分の工事を完了
- 2022.05 草加事業所の厚生棟の屋根を遮熱塗装での改修工事
- 2023.03 草加事業所・滋賀工場で使用済み作業着のリサイクル回収開始
- 2023.04 草加事業所の産廃リサイクル業者を新規開拓しサーマルリサイクル開始



平岡織染株式会社は、繊維素材をベースに様々な合成樹脂と組み合わせることで機能的で使いやすい製品を製造、提供しています。機能性や特性を重視する建築、土木、車輛といった産業分野やデザイン性や嗜好性が求められる店舗、スポーツ、レジャー用品など、幅広い分野でご利用いただいています。

私たちは、企業が成長し続けるためには、企業活動に伴って発生する環境への負荷を最小限に留めることが最も重要であることを認識しています。事業活動、製品、サービスから生じる環境への負荷を的確に捉え、技術的そして経済的に可能な範囲で、目的・目標を設定し、汚染の予防の継続的な維持・改善に努め、環境の保全と向上を図るため、次の施策を推進します。

1. 事業活動は、環境、健康、安全に留意し、汚染予防に最善を尽くします。
特に、製品の製造に伴い使用する化学物質等の取り扱い及び管理の適正化に努めます。
2. 環境に関する各法規制を遵守するとともに、自主基準、規定などを整備し、管理の一層の向上に努めます。
3. 省資源、省エネルギー、リサイクル、廃棄物の減量化などに積極的に取り組みます。
4. 環境に配慮した研究、開発、設計を行います。
5. 社員に環境教育を実施し、環境保全意識の向上に努めます。
6. 「環境基本方針」は、関連協力会社に周知すると共に外部からの要求に応じて提供します。



リスクマネジメントの推進

重要な環境課題に関連するリスクの特定・評価と対応策は、営業部門と技術部門合同の連絡会議において毎月検討しています。

当社の事業活動に重大な影響を及ぼすおそれのあるさまざまなリスク項目のうち、重要な環境課題に関連するリスクとしては化学物質規制強化への対応が挙げられます。

例としては、当社の主要製品群で使用しているフッ素系撥水剤が近い将来に規制対象となる可能性が高くなっており、代替吸水防止処理技術の研究と代替資材対応策が急務となっていることなどがあります。

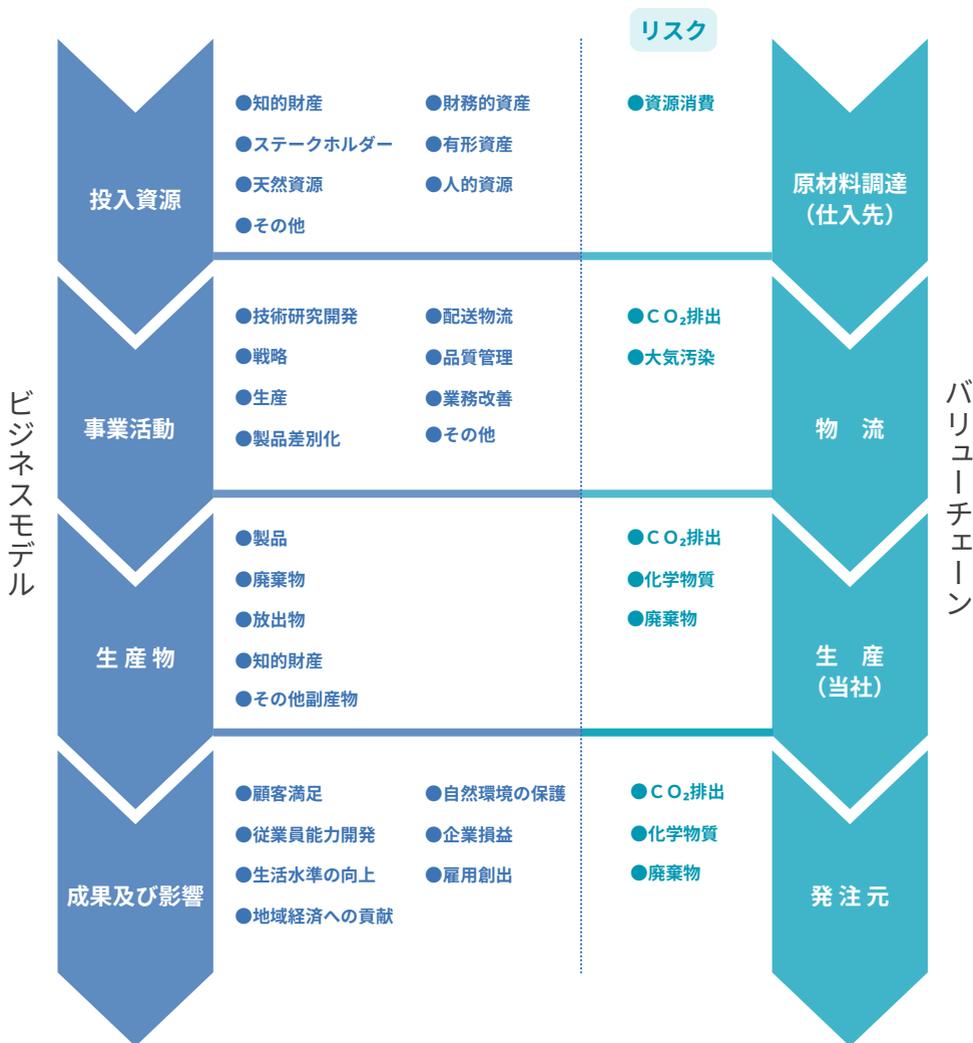
リスクマネジメントの有効性評価は、経営幹部会議の中で適宜実施しています。

対象となるリスク

- ◆地震、洪水、事故、火災等の災害リスク
- ◆製品性能・品質に係るリスク（事業リスク）
 - ◇異常気象激甚化等の急性リスク
 - ◇平均気温上昇等の慢性的リスク
 - ◇低炭素社会への移行に伴うリスク
 - ▽政策・法規制の変化によるリスク
 - ▽技術の変化によるリスク
 - ▽市場の変化によるリスク
 - ▽評判に係るリスク
- ◆不適正な業務執行によるコンプライアンスリスク
 - ◇ハラスメント等の人事・労務リスク
 - ◇税・財務リスク
- ◆情報システム、セキュリティリスク

当社のビジネスモデル

当社のビジネスモデルを構成する各要素は、短・中・長期のいずれの期間においても有効に機能する価値創造システムとして統合的に一体化しており、バリューチェーン全体で重要な環境課題と付帯するリスクを以下のように識別しています。



当社は、2022年度から2024年度までの環境中期計画において、以下の目標を掲げ、取り組んでいます

CO₂排出量削減目標

産業廃棄物処分量削減目標

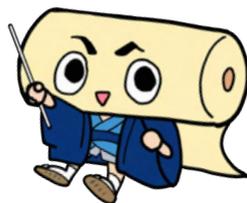
2021年度の実績を基に
3年間で3%削減

年 度	基準年度 (2021)	2022	2023	2024
CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂ /千㎡)	484	516	569	TBA
産業廃棄物処分量 (kg/千㎡)	67.7	65.0	66.6	TBA

原単位は生産数量から算出しています。

CO₂排出量は削減対策として工場FAクーラーの省エネ型への更新と照明のLED化を実施し前年度比1.8%の削減となっておりますが、生産数量減少に伴う生産効率悪化の影響を受け原単位では10.3%の増加となりました。

産廃処分量は新規リサイクル業者を開拓してリサイクル量を前年度比19.7%増加させた結果、前年度比8.9%の減少となっておりますが、生産数量減少の影響を受け原単位では2.5%の増加となりました。

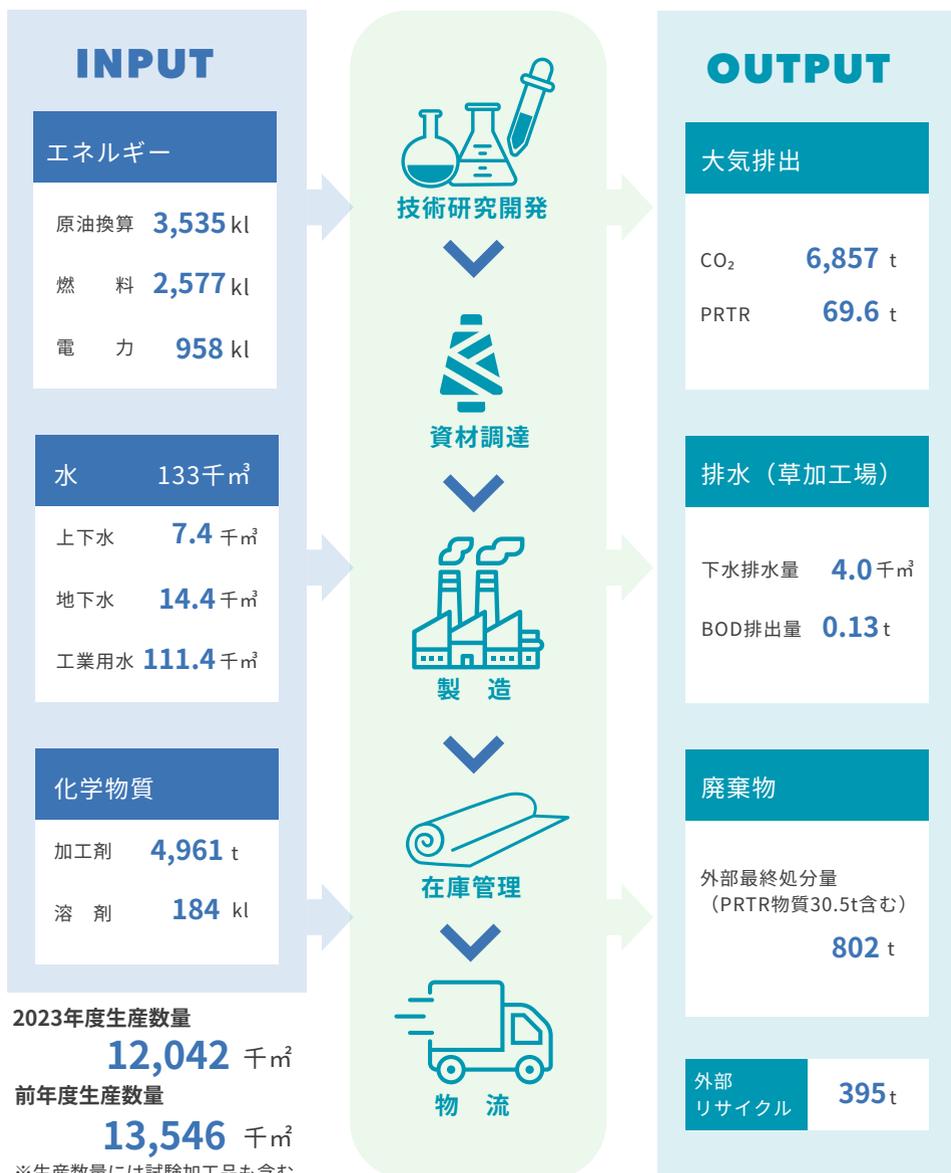


当社公式キャラクターまきちくん

環境報告の全体像

当社は、その事業活動において排ガス、排水、廃棄物等、様々な環境負荷の実態を正確に把握し、低減に努めています。

2023年度の事業活動におけるインプットとアウトプットは、下図のとおりとなっています。



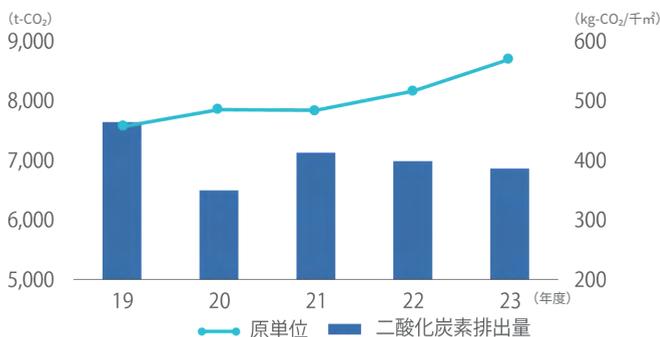


気候変動抑制

2023年度の工場全体のCO₂排出量は、前年度比1.8%減の6,857t-CO₂でした。また、原単位排出量（生産数量当たり※¹）については、前年度比生産数量が11.1%減少したことに伴う、生産効率悪化の影響が大きく、10.3%増となりました。2024年度は、空調設備の更新や高効率ボイラー2台更新など成果重視の省エネテーマを計画して、CO₂排出量の削減に取り組みます。

■年度毎の二酸化炭素排出量※²

年度	2019	2020	2021	2022	2023
二酸化炭素排出量 (t-CO ₂)	7,638	6,494	7,124	6,985	6,857
原単位 (kg-CO ₂ /千㎡)	456	485	484	516	569
生産数量 (千㎡)	16,745	13,398	14,733	13,546	12,042



※¹ 原単位の生産数量には、試験加工数量も含んでいます。

※² 電気の二酸化炭素排出係数は、22年度以前に適用の埼玉県固定係数(0.495t-CO₂/kWh)を適用。

省エネルギーの推進

コロナ禍の影響で、2020年度は草加・滋賀の両工場のエネルギー使用量が急激に減少しましたが、その後もコロナ禍前の水準を下回る範囲で推移しています。当社としては工場FAクーラーの省エネ型更新や照明のLED化など、堅実に省エネを推進しています。

■年度毎の原油換算エネルギー使用量





水資源・生物多様性保全

◆当社対象範囲について

工場排水を行っているのは、染色を行っている草加事業所です。そのため、水質汚濁防止法の適用対象は草加事業所のみとなり、滋賀工場は適用対象外となります。

◆草加事業所における取組状況

2018年度から硬貨袋用シートの製造中止に伴い、染色排水量が激減したこと、排水処理施設の最新型加圧凝集浮上設備へ2018年に更新したことにより、BOD^{**1}排出量が極端に減少しています。草加事業所では下水の水質自主検査を毎月実施しています。

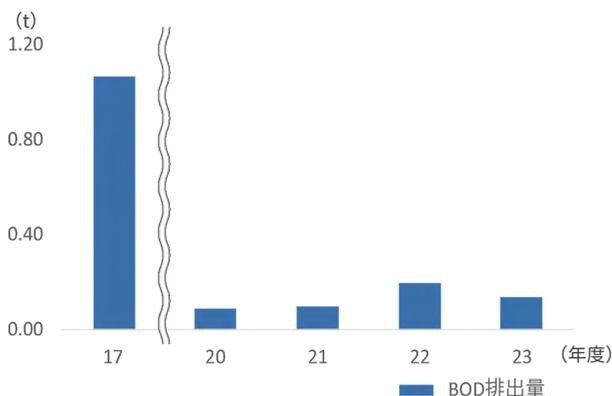
今後も引き続き、草加市下水道条例で定める下水排除基準に適合した水質維持に努めてまいります。

※1 BOD・・・Biochemical Oxygen Demand 生物化学的酸素要求量
 水中の有機物などの量を、その酸化分解のために微生物が必要とする酸素の量で表したもの。過剰な有機物の排出が招く腐敗による酸欠により、水中の酸素（溶存酸素）が減少すれば、魚類等の好気性生物が生存できなくなり、さらになくなった場合には、いわゆる「水が腐る」状況となり悪臭等の発生に至る（魚類が生存可能な溶存酸素濃度の下限が3-5mg/Lと言われ、環境基準のC類型の基準値として採用されている）。



■年度毎のBOD排出量

年度	2017	2020	2021	2022	2023
BOD排出量 (t)	1.06	0.09	0.10	0.19	0.13





産業廃棄物削減

2023年度の産廃処分量は802tで前年度8.9%減少しました。

産廃量は2022年度と変わりませんが外部リサイクルが19.7%増えたことが要因です。新規リサイクル業者の開拓及び産廃削減委員会での削減取り組みが実を結びました。特に、加工設計の見直し、加工中に出た樹脂コンパウンド・オレフィン容器・PE袋の再生、オレフィン耳カット紐のサーマルリサイクル業者が開拓できたことで大きく貢献できました。

2024年度は産業廃棄物として処分していたフェンツ及び耳カット紐のケミカルリサイクルを進めて削減に取り組みます。

■年度毎の産業廃棄物発生量

年 度	2019	2020	2021	2022	2023
産業廃棄物処分量 (t)	1,058	929	997	880	802
リサイクル量 (t)	429	319	366	330	395
原単位 (kg/千㎡)	63.2	69.3	67.7	65.0	66.6

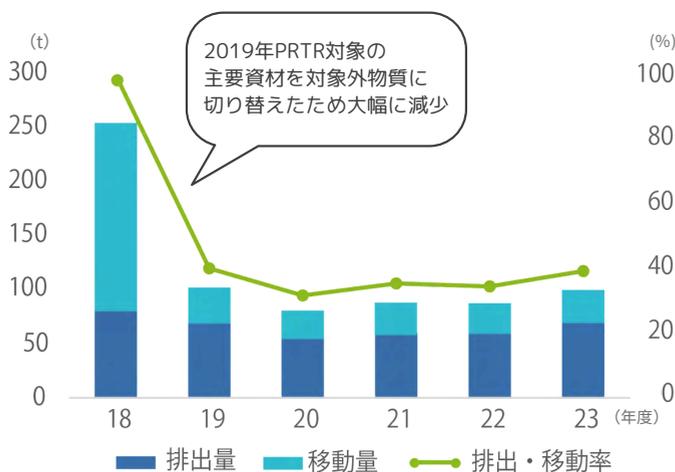


化学物質の適正管理

2023年度は前年度に比べて生産量が11.1%減少しましたが、排出量と移動量は増加しました。これは、法令改正によりPRTR届出対象の化学物質数が462物質から515物質に増えたためです。この改正により、新たに追加された化学物質の排出量や移動量も報告するようになり、全体の数値が増加しました。

■年度毎のP R T R届出排出移動量

年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023
排出量 (t) ^{※1}	80.3	69.1	54.6	60.4	59.7	69.6
移動量 (t) ^{※2}	175.0	33.2	26.3	30.0	28.2	30.5
排出・移動量推移 (%) ^{※3}	100.0	40.1	31.7	35.4	34.4	39.2



※1 排出量は大気放出量

※2 移動量は産廃処分量

※3 排出・移動量推移は、2018年度を基準(100%)とした場合の増減



大気汚染予防

ボイラ燃料の完全ガス化



2006年8月導入 RTO

SO_x（硫黄酸化物）排出量は、ボイラ燃料の完全ガス化（A重油全廃）により、2011年1月からゼロとなっています。ばいじん排出も、都市ガスへの燃料転換による効果で、極めて低い水準で推移しています。揮発性有機化合物（VOC）の排出抑制では、グラビア塗工機から発生する有機溶剤ガスを蓄熱式排ガス浄化装置（RTO）に導入、95%以上を燃焼し、大気放出量の大幅削減に貢献しています。

分散型エネルギー導入



2019年3月導入 ガスコージェネレーション（CGS）

草加事業所ではクリーンな都市ガスを燃料として最大700kw発電可能なCGSを導入し、環境負荷低減に大きく貢献してます。日中最大限、CGSで発電した電力を使用しており、省エネルギーとCO₂排出量の削減に寄与しています。

また、非常時の停電時にはガス供給により発電することができ、事務所、福利厚生施設等を避難所として活用することができます（ブラックアウトスタート方式）。

リサイクル・アップサイクル

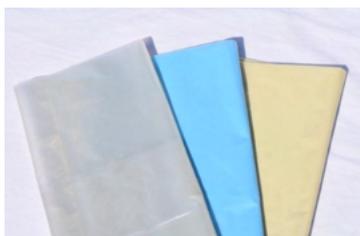
リサイクル



削減プロジェクト
2024

多くの著名企業が参画している
『CO₂5000t削減プロジェクト』に参画しています。

新品資源の使用を抑えた廃棄物由来原料のごみ袋「FUROSHIKI」の導入により
導入開始以来306kg-CO₂排出削減に貢献しました。



サステナブルごみ袋「FUROSHIKI」



CO₂排出削減証明書

BRING

衣料品のケミカルリサイクル

『BRING』に参画しました。

草加事業所・滋賀工場にて使用済みとなった作業着
を回収・提供し年度内5回、合計239kgの再資源化
に貢献しました。



JEPLAN



JEPLAN



JEPLAN



JEPLAN



JEPLAN



2023年度回収品受取証明書



アップサイクル -当社廃材（端材）の創造的再利用-

ヘリテッジ株式会社が運営するブランド『CRAFSTO』との協業により、当社メッシュ製品の端材を創造的再利用したトートバックならびにペットボトルホルダーが製品化され、同社主催のポップアップストア（渋谷：2024.3）にて販売されました。



トートバック



ペットボトルホルダー



当社メッシュ製品を使用し、
透け感があり涼し気な印象に-



実際の販売の様子



紙製ファイル



従来のプラスチッククリアファイルに替え、ベジタブルオイルインキを使用しカーボンオフセット^{※1}を付加した紙製のファイルをお客様へのサンプル送付時等に使用しています。紙製ファイルの裏面には、SDGsに対する当社の取り組みを掲載しています。

※1 カーボンオフセットとは…

日常生活や経済活動において排出されるCO₂排出量を認識し、できるだけ排出量が減るよう削減努力を行い、それでも削減が困難な排出量は他の場所で実現したCO₂排出削減量を購入することにより、自身の排出量の全部または一部をオフセット（埋め合わせ）する活動。

事業所内の照明をLEDに刷新



工場内全体に展開されたLED照明の取り組みは、環境への配慮と経済的な利益の両面で成果を上げており、今後も持続可能なエネルギー管理の一環として取り組んでまいります。

人と環境にやさしい企業活動

7 エネルギー効率を向上
してクリーンに



エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

化学物質排出移動量届出制度に基づく取り組みを行っています。燃料油、溶剤、塗料等の揮発を防止する等、VOCの排出抑制に取り組んでいます。大気汚染の少ないプロセスや都市ガス燃料を採用しています。

3 すべての人に
健康と福祉を



すべての人に健康と福祉を

エネルギー使用量を把握・報告し、削減に取り組んでいます。ガス・コージェネレーションシステムを導入することにより、昼夜の電源の平滑化を図りエネルギー効率を改善しています。

12 つくる責任
つかう責任



つくる責任 つかう責任

分別回収ボックスの適正配置により、ごみの分別を徹底しています。溶剤回収システムを導入し、大気への放出を最小限に抑えています。製品のライフサイクル長寿化に常に取り組んでおり、廃棄物の削減を図っています。

2 環境を
ゼロに



グリーンハウス専用膜材を開発し、世界的に有名なテントメーカーに納入することを通じて、世界中で農業生産性を向上させるグリーンハウスの普及を支えています。

8 働きがいも
健康増進も



発展途上国含め、すべての人の働く権利を守って安全に安心して仕事ができる環境を作っています。

14 海の豊かさを
守ろう



魚類の養殖用に無毒ターポリンを提供しています。栽培漁業に使用される膜材を提供しています。

6 安全な水とトイレを
世界中に



安全な水とトイレを世界中に

水質汚濁の少ないプロセスや機器を採用しています。排水処理装置を適切に設置し、排水等の監視及び測定や排水処理設備の点検を定期的に行い、適正に管理しています。

11 働き続けられる
まちづくりを



住み続けられるまちづくりを

産業廃棄物最終処分量、発生量の削減や化学物質使用量の把握と削減に取り組んでいます。ばい煙等の監視及び測定や廃棄処理設備の点検を定期的に行う等、適正に管理しています。

13 気候変動に
具体的な対策を



気候変動に具体的な対策を

温室効果ガス排出量を把握し、環境負荷低減に取り組んでいます。遮熱効果のあるクールマックスシリーズを商品化し、気候変動対策へ貢献しています。災害に遭遇した場合でも事業を復旧し、継続するための計画や準備に取り組んでいます。

5 ジェンダー平等を
推進しよう



セクシャルハラスメント・パワーハラスメントなどの人権侵害を予防するための社員教育を行っています。従業員、またはその家族の妊娠・出産・育児・介護・看護、その他健康状態に配慮した労働環境を整備しています。

9 資源と技術革新の
両立を推進しよう



製品の同一機能に対して資源使用量のミニマム化を指向しています。また、製品の長寿命化を指向しています。産学連携を行っています。

17 パートナーシップで
社会課題を解決しよう



廃棄していた生産端材をリサイクル事業者とのパートナーシップにより再利用、さらに異業種連携により新たな製品として生まれ変わらせるアップサイクルへの取り組み、官民連携により地域の子供たちへの環境教育支援を実施しています。



当社は、開発する製品に対し環境負荷低減を追求しエコプロダクツ（環境配慮型製品）の開発に取り組んでいます。

◆遮熱シリーズ

地球温暖化の問題が叫ばれるようになり、世界的な規模で温暖化対策が求められています。当社では大きな熱エネルギーを持つ太陽光が当たるテント膜材に遮熱シリーズを展開し、膜構造物内部空間に対する暑さ対策のソリューションを提案しています。



■クールマックス®シリーズ

太陽光の赤外線を効果的にカットすることで膜材への熱移動を抑え、内部温度の上昇を抑制することのできる遮熱性を有した膜材料シリーズとなります。

ウルトラマックス®クール

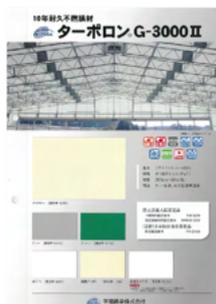
テント倉庫用膜材であり保管物の熱ダメージ軽減にも寄与します。

エバーマックス®450クール〈受注生産〉

中大型テント用膜材であり、活動空間である内部空間の環境改善、冷却コストの抑制にも寄与します。

サンドリーム®2クール〈受注生産〉

透明テント膜材であり、赤外線を透過しやすい透明膜材にも遮熱タイプをラインナップ。



■10年耐久不燃膜材

ターポロン®G-3000II 遮熱アイボリー

2023年6月にG-3000IIのバリエーションに遮熱アイボリーが加わりました。不燃膜材使用のテント建築物においても通常品に比べ、日中の内部温度上昇を抑制することが出来ます。

遮熱に関して詳しくはこちら





◆バイオマスプラスチック製品



■バイオマスターポリン 〈開発提案品〉

軟質塩ビフィルム中の汎用可塑剤を石油由来から植物由来に変更したターポリンです。石油由来資源プラスチックを15%削減できるだけでなく、成長過程でCO₂を吸収する植物を由来とした成分の使用により大気中のCO₂の発生量を抑えることができます。

◆CO₂低減ターポリン



■両面印刷用遮光ターポリン

アドマックス®SJT-V200FD

当社従来品と比較し、構成材料中の有機量を30%低減しました（計算値）。

これにより燃焼時のCO₂排出量を抑制します。

※廃棄する際は、下記の方法で処理してください。

- (1) 廃棄物処理法、都道府県条例等に従って処理してください。
- (2) 許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託してください。

◆非塩ビターポリン



■エコターポ® 非塩ビカラーシリーズ

燃えた時にダイオキシンや塩素ガスが発生する原因となる材料を含んでいません。また、フタル酸フリーで安全性の高いターポリンです。抗ウイルス性能により、衛生面にも配慮しています。



平岡織染株式会社 HIRAOKA & CO., LTD.

東京 〒110-0011 東京都台東区三ノ輪1-21-7
大阪 〒541-0044 大阪市中央区伏見町4-2-14

TEL.03-3876-2111
TEL.06-6209-7000

FAX.03-3875-5627
FAX.06-6209-7011

